

Gn-015

会場：C403

時間：6月5日 14:00-14:15

ODP Leg 186 の底生有孔虫群集に基づく三陸沖の古環境変遷

Palaeoenvironmental changes off Sanriku region based on benthic foraminifera assemblages, ODP Leg 186.

岡本 恵[1], 長谷川 四郎[2]

Megumi Okamoto[1], Shiro Hasegawa[2]

[1] 北大・地環研・地圏環境, [2] 北大・地球環境

[1] Geoscience, Hokkaido Univ, [2] Env. Earth Sci., Hokkaido Univ.

三陸沖深海底のODPコアHole 1150A(北緯39°11', 東経143°20', 水深2681m)から産出する底生有孔虫群集を検討した。後期中新世～鮮新世では水深1000m前後を示す群集が多産するが、鮮新世末期～更新世では現在の水深を示す群集に変化している。これはこの地域が鮮新世に著しく沈降したことによると考えられる。また後期中新世～鮮新世の群集はKeller et al (1980)による1150A北部のDSDPコアHole 438A, 438B(1558m, 1564m)の群集と類似する。

この結果は、本地域が鮮新世中後期から更新世初期に沈降したとする飯島ほか(1961)の結論と調和的である。